

令和元年宇治田原町全員協議会

令和元年11月7日

午前10時29分開議

議 事 日 程

日程第1 行政諸報告

○まちづくり総合計画審議会の結果について

日程第2 その他

1. 出席議員

議 長	12番	谷 口 整	議員
副議長	1番	山 内 実貴子	議員
	2番	山 本 精	議員
	3番	今 西 久美子	議員
	4番	垣 内 秋 弘	議員
	5番	田 中 修	議員
	6番	原 田 周 一	議員
	7番	馬 場 哉	議員
	8番	松 本 健 治	議員
	9番	谷 口 重 和	議員
	10番	浅 田 晃 弘	議員
	11番	藤 本 英 樹	議員

1. 欠席議員 なし

1. 宇治田原町議会全員協議会規程第5条の規定により会議事件の説明のため出席を求め
るものは次のとおりである。

町	長	西 谷 信 夫 君
副 町	長	山 下 康 之 君
教 育	長	奥 村 博 巳 君
総 務 部	長	奥 谷 明 君
健 康 福 祉 部	長	久 野 村 観 光 君

建設事業部長	野田泰生君
まちづくり整備推進 担当部長	黒川剛君
教育部長	光嶋隆君
企画財政課長	矢野里志君
企画財政課課長補佐	岡崎一男君

1. 職務のため出席した事務局職員は次のとおりである。

事務局長	村山和弘君
庶務係長	太田智子君

開 会 午前10時29分

○議長（谷口 整） それでは、本会議に引き続き、皆様大変ご苦労さまです。

会議は、お手元に配付をいたしております会議日程により進めさせていただきたいと思えます。

これより、議事に入ります。

日程第1、まちづくり総合計画審議会の結果について、これを議題といたします。

岡崎企画財政課長補佐。

○企画財政課課長補佐（岡崎一男） それでは、私のほうからまちづくり総合計画審議会結果についてご報告申し上げます。

事前に配付させていただいております資料内容のほうを先にご説明させていただきますけれども、4種類ございまして、1枚目右肩、本日の日付と全員協議会資料と書いてございますA4番裏表の資料、めくっていただきまして右肩、別紙1と書いてございます後期基本計画の骨子（案）、こちらのほうもA4のほうで7ページございます。その後ろのほうに、A3版の片開き折りをしております右肩に別紙2と書いてございます地域創生総合戦略骨子（案）、こちらのほうは3ページございます。一番最後、同じくA3版片開き、ちょっと真ん中のほうになっておりますけれども、上のほうに別紙3と書いてございます、こちらのほうは1枚ものでございます。

それでは、戻っていただきまして、1枚目の資料をご覧ください。

本日ご報告させていただく内容は、去る10月28日の月曜日に開催いたしました外部有識者の審議会第2回目の会議内容のご報告となっております。

今年度、本町では、まちづくりの基本的な指針であります第5次まちづくり総合計画の改定を進めているところでございます。これまでから議会のほうにもご報告させていただいておりますとおり、この改定の中では大きく2つの内容を含んでおります。

1つ目は、本町の条例に基づき2025年までを計画期間とする第5次まちづくり総合計画の後期基本計画の改定でございます。もう1点が、国の法を根拠といたしまして、原則全国全ての自治体がつくる2040年までの人口減少対策とそのための短期的な具体的施策を掲げるまち・ひと・しごと創生総合戦略、この2つを一体的に改定の中で進めているところでございます。

改定に当たりまして、6月から町長の諮問により、まちづくり総合計画審議会を設置して進めているところでございますけれども、今回はそれぞれの計画の骨子（案）を審議する会議を開催させていただきました。委員の一覧は、この資料の裏面のほうにござ

います。18名の委員で構成させていただいております。戻っていただきまして、中段の出席者のところ、欠席3名の方がいらっしやいまして出席者15名の中でご審議をいただきました。

当日の審議事項でございますが、一番下のところをご覧ください。

大きく報告事項が1点、審議事項を3点審議いただきました。報告のほうといたしまして、住民意識調査の結果概要、これは9月議会定例会にて速報を報告させていただいた内容でございますけれども、こちらのほうの公表版の資料のほうを報告させていただきました。

審議事項につきましては、3点ございます。

1つ目が今後6年間の町施策全般の位置づける後期基本計画の骨子。2つ目が先ほど申しました今後5年間で数値目標を掲げ、重点的に人口減少対策のために推進する第2期地域創生総合戦略、まちづくり戦略の骨子について。3点目が基本構想部分、主に将来人口の考え方についてをご審議いただく基本構想部分の見直しについて、この3点についてはご審議いただきました。それぞれ資料のほうを抜粋という形で、別紙1から3、後ほどご説明をさせていただきます。

少し上のほうに戻らせていただきまして、趣旨、審議結果のまとめの3つ目の四角のところですが、今回の会議で委員からは、それぞれのご視点から基本計画、まちづくり戦略、将来人口それぞれについて、多くの課題と施策提案を受けていただいたところでございます。

なお、今回の骨子提案におきまして、大きな議題でありました町としての将来人口の考え方につきましては、後ほどご説明させていただきますけれども、5次総合計画の期間であります2025年に8,700人、まち・ひと・しごと創生総合戦略の人口ビジョンの期間であります2040年に8,000人を実現するための視点を今後の改定施策検討のベースとすることを審議会において、ご承認いただいたところでございます。

なお、次回の審議会につきましては、これらをもとに計画素案という形でお示する会議として、12月16日の月曜日午前を開催することを決定しております。

それでは、めくっていただきまして、別紙1をご覧ください。

1点目、別紙1のほうは、先ほど申し上げました本町としてのまちづくり総合計画の後期基本計画の骨子（案）でございます。こちらには町施策全ての分野にわたる内容を個別の計画とも整合しながら位置づけを図っていくものでございます。1枚めくっていただきまして、1ページをご覧ください。

これまで住民アンケート等の住民の皆様のニーズ把握、あるいは各種公表資料等の統計的な資料の状況把握、また町内ヒアリングを中心とした現計画の評価・検証という大きく3つの取り組みにより、この骨子の方向性を策定してまいりました。

ページをめくっていただきまして、2ページ、3ページ、4ページとわたるんですけども、内部環境としての本町の強み、それから本町の弱み、それからめくっていただきまして、外部環境、本町を取り巻く状況としての機会、これら強み、弱み、機会という部分から、現行の課題というのを導き出しておるのが5ページでございます。これら現行の総合計画の進行に当たっての課題を以下5点のように整理しております。課題1から5、課題1、「健やかに安心して暮らせるまち」の実現に向けてというところから5つ書いてございますが、こちらのほうが5ページ、6ページと記載させていただいております。

7ページのほうをご覧ください。

これらを踏まえまして、後期基本計画の体系でございますけれども、原則といたしまして、前期の体系を継承しつつすなわちここにポンチ絵でございますように、4つの施策分野のまちづくりの目標、それから2つの行政の基本姿勢、こちらの項目で全ての施策分野をそれぞれの個別計画と整合を図りながらつくっていきたいという形を考えております。

なお、いわゆる計画としての文章といたしますか、素案につきましては、12月の審議会、また議会のほうでお示しをさせていただく予定でございます。このポンチ絵のほうで下のほうに、矢印で重点的・集中的に取り組むテーマとして青い丸四角で囲ってございますまちづくり戦略（第2期地域創生総合戦略）ということを書いている部分がございますが、これは先ほど申し上げました人口減少対策を中心として今後5年間に取り組む具体的施策を位置づけるところでございまして、こちら別紙2のほうの総合戦略骨子（案）のほうになってまいります。

めくっていただきまして、別紙2をご覧ください。

別紙2、右下にページ振ってございます。1ページです。

こちらのほうですけれども、一番左側のピンク色の部分で囲ってございますのが、4年前に策定しました現行のこちら総合計画の中に続けておりますけれども、現行の総合戦略の枠組みでございます。そして右側、灰色の四角と緑の部分ですけれども、こちらのほうは町の統計的な分析、あるいは先ほど申し上げました町内の各課ヒアリングとまた現計画の進捗評価を行いました部分と6月に示されました国の基本方針の抜粋と

いますか、要点を書いてございます。その下、青い四角の部分がこれに総合計画審議会でのご意見も踏まえた第2期の戦略の方向性として今骨子として考えている部分で
ございます。

第2期の総合戦略につきましては、第1期の取り組みに加えまして、ここに書いて
ございます誰もが活躍できる地域社会の構築に始まります新たな視点に重点を置くことを
加味いたしまして、一番下の点線の四角で書いてございますけれども、第2期の戦略の
基本姿勢といたしましては、第1期の戦略を通じて根づいた部分、施策、事業を継続し
つつ町が抱える課題等を踏まえまして、より一層の地域創生の充実強化に取り組むとい
うことを考えておりまして、大きく3つの分野、こちらは現行と同じでございませ
けれども、に分けて具体的施策を位置づけていきたいと考えております。

1つ目が、町に新しい人の流れをつくり働く場を確保すること。2つ目が若い世代の
希望をかなえ、元気なうじたわらっ子を育むこと。3つ目が地域で見守り安心して暮ら
しの幸福度の高い町をつくることとでございます。この幸福度という言葉でございませ
けれども、審議会の委員からもいただいたご意見でございますが、移住もこの間頑張っ
てまいりまして、もちろんそれは大事なんですけれども、定住、現に住んでいらっし
やる方の幸福を高めるという視点、こちらのほうも第2期の戦略の中では重視して
いく視点であろうというところでございます。この部分につきましては、後ほどの
将来人口の考え方にもつながってまいります。

それでは、めくっていただきまして、3ページをご覧ください。

別紙の2ページは先ほど申し上げました町の統計的な分析でありましたり、国の
方針でありましたり、審議会の意見をまとめたものでございますので、またご
覧おきください。

別紙2の3ページをご覧ください。

3ページのほうですけれども、先ほども申し上げました戦略の中での3つの基本
目標、一番左側のほうに書いてございます。それから真ん中のほうに、その3つの
基本目標を達成するための基本的方向というところで、3つの目標ごとに細分化を
させていただき、さらに施策ということで1-1-1から始まる16の施策の柱、
これ現行は19の施策の柱だったんですけれども、16の施策の柱で一番右
側に書いてございます事業の設定に向けた検討を、これから素案策定に向
けて急ぎ進めていくところでございます。目標指標というのを左から2番
目の枠のところに書いてございますけれども、これは国の法律のほうに基
づくさまざまな交付金、この戦略の定めの中で重要業績評価指標いわゆる

K P I と呼ばれる数値目標を設定していく。それを実現するために施策を行うというそういう建てつけになってございますけれども、こちらのほうも素案に向けた検討項目として急ぎ定めていくこととしております。これら戦略において達成する最終的なK P I と申しますか、そちらの部分が将来人口になってまいります。こちらにつきまして、別紙3のほうでご説明をさせていただきたいと思っております。

別紙3をご覧ください。

将来人口の見直しの方向性として、審議会のほうに諮らせていただいた内容でございます。一番左の上のほうを見ていただきまして、これまで総合計画、総合戦略の取り組みの進展、移住定住対策、道路基盤整備、他市町よりも手厚い子育て支援策等、さまざまな施策を進めてきたその一定の成果を踏まえましても、国の社会保障・人口問題研究所というところがあるんですけども、国全体の自治体毎の人口を統計的に調査し、公表している機関でございますが、こちらが公表した将来人口との乖離が拡大し続けている現状でございます。

一番右下のグラフをご覧ください。右下のグラフの中で、現行計画4年前につくった将来人口目標と社人研、先ほどの社会保障・人口問題研究所、社人研と略させていただきますけれども、推計との比較のグラフです。この赤い点線のほうが4年前に掲げました現行計画の将来人口目標です。ご承知のとおり、2040年に1万人を目指すというところで目標を掲げておりました。

なお、ここで言います人口といいますのが、国勢調査をもとにした人口の方でございます。平成27年10月の国勢調査の時点で住民基本台帳の人口よりも330人少ない。例えば、就学等の関係で町外にお住まいの方が国勢調査のときには実際にはおうちにお住まいになられていないというような部分はその要因なんですけれども、330人少ない人口、それをベースとしております。緑の点線が4年前に根拠にした当時の社人研の出しておった本町の将来人口でございます。黄緑色の実線、こちらのほうが平成30年3月に出された最新の社人研の推計です。4年前に根拠とした推計では2040年に本町は7,382人になるという推計でございましたけれども、最新の推計では、さらに減って6,581人になるという統計的な推計が出ております。この最新の社人研の推計は、全国の7割以上の市町村が2015年と比べて2040年に2割以上人口が減少するという公表がされております。現在の本町の人口がどこかといいますと、ここの黒い赤丸が2019年8月人口というところが8,932人、ほぼ最新の社人研の推計どおりで推移しているというところでございます。ちょっと左側に戻って

いただきまして、こうした現状を踏まえましてそれぞれ総合計画、総合戦略、人口ビジョン、それぞれの目標年次ごとに日本全体で人口減少はやはり進んでいると、そういう前提の中で町としてできる限りの人口増加と定住化を目指すことが必要ではないかと。その視点としましては、当然ながら総合計画の将来人口は、下の青い四角の中でございますけれども、括弧書きに書いてございますような例にございます町のインフラ、ハード整備等にも各種計画の考え方にも大きく影響してまいります。また、現行の計画の取り組みを総括いたしますと、短期的な移住・定住、子育て支援対策は大きな効果を上げており、人口減少が緩やかになっている部分がございます。しかし、やはり目標人口とは乖離が続いている現状がございますので、先ほど申し上げました移住だけでなく定住、あるいは利便性を向上する努力のもと幸福度を高めるという視点へのシフトも必要ではないかと。そういった部分から右側のオレンジの具体的な考え方というところで将来人口のほうを設定提案させていただきました。

具体的には、5次総計の計画期間であります6年後の2025年、こちらは短期的な目標として社人研の推計に対してプラス約400人の戦略という設定で8,700人、それから約20年後まち・ひと・しごと創生総合戦略の計画期間であります20年後の2040年には長期的な目標として社人研推計に対してプラス約1,400人のまちづくりという将来人口として8,000人の目標を掲げたいと考えているところでございます。その考え方でございますけれども、左側の青い丸四角囲みのところをご覧ください。大きく2つの取り組みにより、これらの目標を達成していきたいと考えております。

1つ目が、今回策定する新たな地域創生総合戦略を進めることによります戦略人口、これまでも進めてきました人口減少対策のための町の施策のさらなる頑張りとともに幸福度を高める取り組みというところで、旧地域を中心とした移動率、定住率ですね、と合計特殊出生率、出生数の改善による人口の増加を目指していきたい。プラス戦略の期間前後に種をまく、今も種をまいておりますインフラ整備との相乗効果による目標人口、こちらのほう現実的な既存住宅用地への移住促進による人口等、先ほど申し上げました戦略人口との連動により人口の増加を目指していくという部分で一番下のグラフのほうをご覧くださいと、先ほどの右側のグラフと同じ考え方でございますけれども、黄緑が最新の社人研推計でございます。今度のこの緑の点線が①の戦略人口の部分、それから赤い点線が目標人口を示したグラフになっておりますけれども、こういった形で短期的には約400人の戦略、長期的に約プラス1,400人のまちづくりという形で新しい総合計画の中で将来人口を達成していきたいというところでございます。

以上のことを審議会のほうで審議いただきまして、ご承認いただきましたので、ご報告させていただきます。

以上、雑駁でございますが、説明を終わらせていただきます。

○議長（谷口 整） ただいまの報告につきまして、何かございませんでしょうか。

馬場議員。

○議員（馬場 哉） すみません、ちょっと資料を今朝もらったところなので、中身は別として、これはたしか議会の議決が必要だと思うんですけども、その流れを少し教えていただけますか。

○議長（谷口 整） 矢野課長。

○企画財政課長（矢野里志） 第2回のほうを今回実施させていただきまして、先ほど説明させていただきましたとおり、第3回の審議会を12月16日に開催をさせていただく予定となっております。その後パブリックコメントのほうを実施させていただきまして、最終3月議会のほうに提案をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

○議長（谷口 整） 馬場議員。

○議員（馬場 哉） 3月議会の議決というのはわかりました。この総合計画は町の最上位の計画やというふうに認識しているんですけども、先日の総務建設常任のほうで、上下水道の人口設定がたしか9,400になっていたかというふうに思うんですけども、そのあたりとの整合性はどうしていかはるんですか。

○議長（谷口 整） 野田部長。

○建設事業部長（野田泰生） 下水道の見直すタイミングにもよるんですけども、前回の委員会で報告させていただきました時点では、あくまでも現計画の第5次総計をもとに作成させていただきましたので、今後また下水道計画の見直しの際につきましては、新しくつくられました計画に基づいて、また、見直しを行っていくようになります。

○議長（谷口 整） 馬場議員。

○議員（馬場 哉） その点は理解しました。こうなると、あと8,700人で何ができるかという議論を今後していく段階やと思うんですけども、そこはおいおい議会も一般質問ございますので、その点でまたいろいろ当局のほうは質問にもしっかり答えていただいて、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。終わりです。

○議長（谷口 整） 今西議員。

○議員（今西久美子） 先日の審議会ですが、ちょっと私、傍聴もさせてもらったんです

けれども、この人口ビジョンについて2040年にずっと町は1万人、1万人と言ってきて、それを8,000人にすると。全国的にも2割程度減っているというお話もありましたけれども、2割も減らすということについて、その審議会の中であまり議論がなされなかったように感じたんですけれども、当局としてはどうでしょうか。

○議長（谷口 整） 矢野課長。

○企画財政課長（矢野里志） 確かに1回目の審議会の中では、その人口の話は議論になっておりません。第2回目のこの間の審議会の中では、具体的な考え方なり、具体的な人口の積み上げなりを報告させていただいて議論をいただいて、最終的に会長さんのほうから、この人口でということを確認をさせていただいたところです。

○議長（谷口 整） 今西議員。

○議員（今西久美子） この1万人を決めたときに、議会の中でもいろいろな意見が出ていましたよね。8,000人に引き下げたらどうやとか、こんなの無理やでとか、大変厳しいでという意見が非常に多かったというふうに記憶をしています。私自身も非常に厳しいだろうなど。よっぽど思い切った子育て支援策なり定住策、移住策を打たない限り、これは無理かなというふうに思っておりましたし、そういう方向で質問もさせていただいてまいりました。ところが、当時の副町長さんは、いろいろな施策をすることで、また情報発信をすることで決してできない目標値ではないと。実現できる目標値だというふうにおっしゃっておりました。町長もずっと1万人と言うてきはって、これ1万人というのは、行政にとっては1つの使命やと、こういうふうに答えておられるんですよ。この使命はじゃどこへ行ったんですか。私はあのときの議論はほんまちょっと何やったんかなと。あまりにもちょっと無責任じゃないかなと思うんですが、どうですか。

○議長（谷口 整） 西谷町長。

○町長（西谷信夫） そのときの議論については、やはり真剣に考えたところでございます。また、やっぱり移住・定住とか子育て支援等々そういった中でも、やはり町の魅力を発信する、またインフラ等の整備をしていくと、そういう施策を総合的に取り組むことによって、やはりせめて1万人という部分を2040年には目標を持っていくべきであろうと。今の現状の人口より下の目標を持つということは、なかなかまだ目標達成しているという、そういう心の緩みもあろうかという部分もございまして、やっぱり職員が一丸となって人口増加に向けて頑張っていこうということで計画を立てさせていただいたところでございますけれども、今現状、確かに人口は減少してきております。

そういった中でも、今までの4年間の取り組みというのは決して無駄ではなく、やは

り移住・定住施策で支援させていただいた対象の家もたくさんございます。そういった中で、減少を緩めるといふ部分では効果があったと思いますけれども、今現状これから2040年までという部分と、この総合計画のあと6年間という部分では、確かに今すぐというのとはなかなか厳しいというふうに思いますけれども、今後も引き続き、いろいろな施策に取り組むことによって、また定住、今住んでおられる方が外へ転出されないようにという幸福満足度等々、やっぱりそういう施策でもしっかり取り組みながら、これからも担っていききたいなというふうに思っておるところでございます。1万人というのが1つの目標としては、私は決して間違っていないかと。その中である程度カバーはできているというふうには私も思っておりますけれども、今現状見てみますと、あまりにも乖離しているという中で、やっぱり審議会のほうで諮っていただいた結果が、こういう目標ということでございますけれども、ただ、今の人口現状から言うても、まだ目標が達成してしまっているという、そういう気の緩みのないように、しっかりと職員が一丸となって宇治田原町の人口増加に向けて取り組んでまいりたいというふうに思っております。

以上でございます。

○議長（谷口 整） 今西議員。

○議員（今西久美子） 確かに8,000人というのが私も現実的な数値なのかなとは思いますが、それでもずっとやります、できますと言うてきはあったわけで、そういう意味では、非常に私は無責任やなというふうに感じているところでございます。

アンケートの結果もちょっと見せていただきましたけれども、例えば宇治田原町に住み続けたい住民人口の割合、これ以前の平成26年ですかね、の調査のときには69.6%だったと。目標としてはこれを80%まで引き上げますということ掲げておられましたが、今回のアンケートの結果としては61.6%、以前よりも減っているんですね。特に私ちょっとショックやったのが中学生の回答です。宇治田原町は好きだけれども、将来住みたい、できれば住みたいを合わせても2割ぐらいしかないんですね。35%ができれば住みたくない、住みたくない、このように答えておられます。また、特殊出生率ですが、将来的には2.1まで上げるというようなことも目標に掲げておられましたけれども、非常に低いままでございます。全国や京都府に比べても宇治田原町は低いんですね。この辺の要因の分析とか、その辺この3年、4年の取り組みをどのように評価をされているのか。私も移住・定住、子育て支援等々、頑張っていたとは思っていますよ。もし取り組みをしてはらへんかったら今以上に減っていた

と、それもそう思います。非常に頑張っていたというふうには思っていますけれども、それでも結果としては、だめでしたと。4年たってこっだけ引き下げますというのが、ちょっと私はどうなのかなというふうに感じています。

町長が三本柱というふうに、ずっとおっしゃっております拠点づくりとしての新庁舎建設ですね。あと道づくりということで山手線等ですね。新名神も来たらIターン、Uターンで人口が増えると企業も誘致を進めますと言うてきはあったけど、これまだこれからやらないですか、まだできてないんやから。できたら、これからどんどん人口増えますよと言うてきはあったん違うんですか。そこは今町長がずっと言うてきはったその三本柱と、この人口ビジョンとちょっと私は整合つかへんと思うんですけどね。その点はどうか。

○議長（谷口 整） 西谷町長。

○町長（西谷信夫） 整合つかへんこと僕はないと思っておりますし、やはり安心・安全なまちづくりの中の防災拠点、また交流拠点としての新庁舎、昨今の災害においても、いろいろな役所が水でつかって機能が果たせなかったというふうなこともございますし、そういう部分でもやはり安心・安全のためには必要やと。山手線につきましても、今は1区間ということで事業化をしていただいておりますけれども、さらに、やはり要望を強めて全線事業化をしていただくと。いろいろと全国から企業の問い合わせ等もございますけれども、やはり山手線が事業化できますということをはっきり言える段階になるまで、やっぱり京都府さんにもお願いをしてまいりたいというふうに思っております。それは、今すぐ結果は出てないやないかとおっしゃるところは現実見たらそうかもしれませんが、やはり将来に向けて、名神もインターチェンジもできる中で、インフラ整備の中で働く場所、また住む場所、やっぱりそういうことをつくっていける可能性は十分に私はあると思っておりますし、それにあわせてソフト面におきましては、やっぱり移住・定住、子育て支援、高校生の通学費の補助等もそうですけれども、やはりそういう総合的にいろいろなことを、これからも取り組んでいる最中でありまして、確かに結果、今出ていないというものの、やはりそれに向かってしっかりと進めていくのが、私の使命やと思っております。

以上でございます。

○議長（谷口 整） 今西議員。

○議員（今西久美子） もう最後にしますけれども、結局今のやり方、町長おっしゃる三本柱では、もう人口増えへんのやということやと思っておりますよ。だから、目標値こっだけ

なんでしょう。それも1万人と、それが使命やというふうに町長がおっしゃっていたのに、その使命をもう投げ捨てられたというふうに受け止めさせていただきます。

以上です。

○議長（谷口 整） 町長。

○町長（西谷信夫） 投げ捨てられたというのは、誰が投げ捨てたのか僕はわかりませんが、私自身はやはり人口も増やしていく中で、町の活性化、お茶の産業、商工業の発展、また福祉の向上と、総合的にやっぱり目標に向けて進んでいくという意味はしっかりと持っておりますので、匙を投げたみたいな言い方は私にはございませんので、ご理解賜りますようお願い申し上げます。

○議長（谷口 整） 谷口議員。

○議員（谷口重和） 2040年、人口1万、もうこれはね、達成できなかったのを8,000に変えたらよろしい、当たり前のことです。できないことをやるよりもできる方向に向けて、それは進んでいったほうがよろしい。そのためには、もうちょっと細部にわたって計画案をつくって、私も前から言っているように、やはり土地利用構想、それをもっとやっぱり細部で他市町もわかるような図面というか、そういうものが大事や思います。でなかったら、新名神インターできても土地利用構想の細かい部分がわからないとあそこは住宅地、ここは工業用地とか大まかな部分やったら、それは来る企業もやはり考えるかもわからない。そやから、できるだけわかるようなパンフレットか何かつくってやね、で移住・定住も図って行ってほしいと思います。

以上です。

○議長（谷口 整） 松本議員。

○議員（松本健治） ちょっと先ほどの議論の人口の目標なんですけれども、私自身、立場は違いましたけれども、この第5次総計の委員でもございましたので、非常に何か私自身も強く責められているように感じながらお聞きをしておりましたけれども、あの時点での5次総計のメンバー、審議会のメンバーも含めて、そりゃ正直いろいろな議論がございました。

町として、1つの宇治田原町としての体を成すというんですか、1つの規模としてやはり1万という単位というのは、従来達成していた時期があったわけですから、この規模は何とか維持したいというのも一方の願望として現実には現実で厳しいわけなんですけれども、ありました。ですから、非常にそこの議論もそういう中でいたしました。ただ、これちょっと町長もお話しされましたけれども、やはり、こういう予測が出されている内

容で目標を設定するというのはいかがなもんかなというのは、やっぱり強い意見としてありました、思いがありました。ですから、やっぱりこういう内容で目標が8,000とか7,000とか、こういう目標を言われている内容で設定すること自体がこういう第5次総計で適切なものなのか。住民に対しても、やはり町の職員なり含めてもどうかというようなこともありましたし、最終的にやはりそういう私は1万に設定せいというふうに申し上げた1人でありました、私だけじゃないんですが。ですから、そういう目標に向かって進んでいくと。それは先ほども言われていましたけれども、やっぱり町のいろいろな計画、道の問題、新市街地の問題、こういうことについても、もっともっと宇治田原町というのは、将来的にそういう要素があるなという意味もありましたからね。何もないところでやっていくんじゃないで、やっぱり道の問題も含めてそういう要素がありましたから。ある意味、夢かもしれませんが、そういうふうに取り組んでいくべきやと、こういうスタンスで動いたわけですね。ですから、おっしゃったように、目標をこんな低いレベルの目標にする必要はやっぱり僕はないんだろうと思いますし、そういうスタンスで誤りではなかったんじゃないか。結果的にはそうかもしれませんが、誤りじゃなかったと、そういうスタンスで動くことはやっぱり正しかったと私は今でも思っています。

それで、ちょっと申し上げておきたいんですけれども、町長もよくおっしゃった、府それから国との太いパイプ、それから、それに基づいて、やはり協調をお互いにしていく。もう一つは、やはり今は自分とこの町だけの問題じゃないんですよ。やっぱり和東とも宇治とも城陽とも井手ともやっぱりいろいろな連携を、また状況によっては、他府県のところとの隣接しているところのやっぱりつながりをもっと強く持っていく。これはいろいろな取り組みの中で、道の問題では307号の関係も含めて、今やってもろっていますよね。ですから、これからは自分とこだけの問題じゃなくて、やっぱりお互いこういう周りへやっているところについては、ウイン・ウインの関係で取り組みを進めるということが、もっともっと大事になってくるというふうに私は思っています。

それともう一つ、先ほどのちょっとアンケートの話も出ていましたけれども、やはり今教育の問題にしても、ちょっと歓迎しないニュースが流れましたけれども、やはり、こういうこと1つ1つも重要な住民に対するマイナスの要素、こういうことがありますので、町長それから副町長、教育長も含めてやっぱりその辺、心してかかってほしいなというふうに思っています。非常に不名誉な記事も流れましたことについては、私も非常に片方では腹立たしい思いを持ちながら聞いておりました。その点、十分考えて心し

てやってほしいなというふうに思っています。

以上です。何かありましたら。

○議長（谷口 整） 西谷町長。

○町長（西谷信夫） 以前は違う立場でということで、いろいろご協議していただきましたことに感謝を申し上げたいというふうに思います。プレスの話もございましたけれども、そういった中で、そういうところ辺にもやっぱり十分に注意を払いながら、それで子どもたちということが一番中心に考えていかなければならないというふうに思っておるところでございます。この間の記事に関しましてはということでございますけれども、そういった中で、今おっしゃったように、やっぱり特別職しっかりとその辺も今後も肝に銘じながら、進めてまいりたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

以上でございます。

○議長（谷口 整） 垣内議員。

○議員（垣内秋弘） ちょっと何点かお聞きしたいと思います。

前回の1万人のときは私もかなり否定的といいますか、可能性としては、もう全くないないようなことを強く言ってきた1人でありまして、その時点時点において、目標値として掲げるのは、それはそれでいいと思います。

それで、今日の新聞だったとたしか思うんですけども、平成の大合併をしたときに、その近隣の合併したところとしていないところの人口減少率とか、その辺が全く変わってきているというようなニュアンスの新聞にも載っていたという、ちょっと思い違いかもわかりませんが、載っていました。

そういうことで、1つは近隣の市町も含めて、これからますますこの人口問題については、現実的に厳しい内容が出てくると思いますし、我々本町だけがどうのこうのということよりも、先ほど連携の話もありましたが、やはり、どこでどういうふうな話が出てくるかわかりません。

そのようなときに、例えば合併問題の話があるとなれば、また出てくるとなれば、本町は今新庁舎も建てておりますし、持続可能な行政運営ということで自主自立を目標にやっているわけですけども、そのような話があるのか。あるいはまた出てきたときに、どうなのか。町長のちょっと思いなり考え方をお聞きしたいと思います。

○議長（谷口 整） 西谷町長。

○町長（西谷信夫） 合併の話はございません。あればということでございますけれども、あればと仮定しただけでお答えできるような内容ではないというふうに思っております。

ので、ご理解賜りたいと思います。

○議長（谷口 整） 垣内議員。

○議員（垣内秋弘） 町長は以前から新名神が開通したときにIターン、Uターン、こういったものに対して非常に期待を持っていたといいますか、その辺も当てにしているというようなニュアンスのお言葉も伺ってきたわけですが、今現在、4年後に新名神がつくわけですけれども、今の段階では仮定として将来のことですのでわかりませんが、そこら辺の内容については、町長、今現在も思いとしては変わっていないのかどうか。

○議長（谷口 整） 西谷町長。

○町長（西谷信夫） 令和5年ということに新名神の開通を今目標に頑張っていたいただいておりますけれども、そういった中、本町でもインターチェンジができる。また滋賀県へ少し行けばスマートインターもできるという、全国津々浦々高速道路に乗ってどこでも行ける玄関口、入り口ができるということで、私はやっぱりそういう中で、できるまでにどんなまちづくりをしゃんなん、またどんなハード整備をしゃんなん、昨今の災害状況では、安心・安全な町としてどういうふうなPRをして対策をとっていくねんと。そういうことをできる限り、新名神の開通までに仕上げていくということによって、Iターン、Uターンのそういう要素も出てくるのかなというふうに思っておりますので、今もその気持ちは変わってはおりません。

以上でございます。

○議長（谷口 整） 垣内議員。

○議員（垣内秋弘） ちょっと変わった観点からお聞きしたいと思いますけれども、これから、やはり人口を増やしていくためには、少子高齢化という、これはもう流れは止められないと思います。そういった中で、やはり少しでも現状を維持するとか、あるいはまた減少するのを食い止めるとか、そういった部分でいきますと、やはりこの資料の2の2ページの左側の下の表にも出ていますように、年少人口がかなり減ってきております。また、高齢者高齢人口は増えてきております。こういった中で、やはり若い人を何とかして増やせないか。私は以前にもちょっと奇抜なアイデアで、結婚するために結婚祝い金を出したらどうやとか、そんなお話もしたことありますが、いずれにしても、やはり若い人を増やすためにどうしたらええのか。これ1本に絞ってやはり論議して、そこんところ集中的に論議することに値打も内容も、より重要な部分が出てくるのかなと思います。そこら辺をどうしていくのか。これはもう高齢者人口というのは、ほっといても増えるわけです。働いている生産年齢人口もまあまあ、そこそこ今やったら維

持できると思います。しかし、若年層の人口はもう急激に減ってくるわけです。そこら辺を少しもっともっと論議されているのか。もうそこら辺の内容について、ちょっとお聞きしたいんですが、具体的にあれば。

○議長（谷口 整） 矢野課長。

○企画財政課長（矢野里志） おっしゃるとおり、人口増加に対しては、特に若い子育て世代等に住んでもらうということが重要だというふうに考えております。そういったことから、町のシティプロモーションの中で、今現在実施をしておりますが、そのターゲットにつきましても、子育て世代で近隣にお住まいの方を対象にシティプロモーションも実施をさせていただいています。また、今現在、そういう世代が入っただけということでは、緑苑坂の住宅分譲が進んでおりますが、そちらへ特に緑苑坂には限りませんが、町内に住宅を購入して移住をしていただいた方には、そういう移住・定住の奨励金等も実施をさせていただいております。これらにつきましても、この次の見直しの中で議論になりました定住の部分につきましても、子育て世代がこういった形で宇治田原町に来ていただけるか。また住み続けていただけるかというのを今後施策のほうを考えていきたいというふうに考えております。

○議長（谷口 整） 垣内議員。

○議員（垣内秋弘） それで、この下の子育て世帯、特に出生が期待されるという文言がございますが、ここの文言の中で子育て世代というのは、コンマ打っていますけれども、特に出生が期待される15歳から49歳というのは、この表現で素直にぱっと見てどうなんですか。これももう少し49歳までじゃ、出生が期待されるという捉え方されたときに、本来現実的にどうなんですか。それはあり得るかもわかりませんが、ちょっと高過ぎるんじゃないんですか。

○議長（谷口 整） 岡崎補佐。

○企画財政課課長補佐（岡崎一男） 資料の中での表現がちょっと余りに細かくて、ご指摘あるところはお詫び申し上げますけれども、この15歳から49歳というのは、国の合計特殊出生率の分母になる年代でございます。ですので、合計特殊出生率というのは49歳までも対象にしておるので、そこをあえてうちの中で下げるところは、ちょっとあくまで現状の話でございますので、入れていないということになります。

（「わかりました。結構です」と呼ぶ者あり）

○議長（谷口 整） ほかに。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（谷口 整） そうしたら、ちょっと私からもちょっと1点申し上げておきたいと思うんですけども、従前のまちづくり総合計画で人口1万人のフレームで、ずっとこの間、議論をされてきたわけですね。先ほど来、かなりエキサイティングというか、感情的なやり取りもあったように見受けられたんですけども、それだけ真剣にお互いに議論をされているんだなと思いますけれども、私もこの間、1万人は無理だろうから、現実に近い方向で修正するべきだということは申し上げてきました。それで、1万人の構想を立てられたときにも、既に2005年から宇治田原町は、もう人口減少に入ってきているわけですね。その中で、かなり厳しい状況の中でも願望ということで、1万人の構想を出された。今回それを8,000人に引き下げられる。その8,000人が社人研の数値からは1,400人もずれのある数字なんで、これもやはり社人研ではそういう厳しい見方をされているけれども、やはり本町としたら、8,000人は維持したいんやという目標を出されたと思うんです。ですので、その1万人のときの思いと、この今回の8,000人のときの思い、これあろうと思うんですが、1万人を今回なぜ8,000人に少なく下げたんだという説明がなかったように思うんで、そこらのこととあわせて8,000人、社人研ではいかへんけれども、8,000人の目標は、これはもう町としてのかなりの願望なんやと。だから、それに向かってやっていくんだという、そこらの思いのところをもうちょっと説明をしてもらえないかなと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（谷口 整） 山下副町長。

○副町長（山下康之） ただいまの質問でございますけれども、確かにおっしゃるものの当初1万人という目標を立てながらも、それに向かって職員一丸となって進めてきたのは、これはもう事実でございますけれども、結果として、なかなかそういったところまで到達しなかったというのが現状あったんですけども、その中で今、ご質問いただいたように、社会保障・人口問題研究所のうちのほうで申し上げますと、まだ1,400人多い目標の8,000人というのを立てさせていただいておりますけれども、この1,400人というのは、非常にこれは重要なところがあるわけで、先ほど町長のほうからもいろいろと申し上げていただきましたけれども、そういうやはり職員が一丸となって、これからはそういう新名神また定住、そういったところにも手を入れるとともに今現在この緑苑坂の地域の中で空いている部分とか、あるいはまたそういういろいろなところでのミニ開発等々も踏まえて、そういうなんも入れて、それでもちょっとしんどい部分あるんですけども、これはもうしっかりと確保して目標どおりにやっ

ぱり進めていかなあかんかなというふうに、もうこれは真剣に取り組んでいきたいというふうに思っておりますので、ひとつよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上でございます。

○議長（谷口 整） もう1点、先ほど谷口議員のほうからも土地の利用構想だとか細部にわたる計画という話も出ておりました。

今回、まちづくりですので、人口のことが中心の議論になったんですけれども、2,000人、人口が減るということは、これ財政的な話も相当また厳しい話になると思うんです。12月にいつも財政計画をお示しをいただいておりますと思うんですけれども、今庁舎の問題、はたまた小中一貫の学校建設等、これから非常にお金がいる時期なんですけれども、従前の財政計画シミュレーションを、この12月にきちっとまた8,000人のフレームで見直したときにどうなるんだということの計画も、きちっとそのあたりを示していただいて、そのときにまた財政の議論はさせていただきたいなと思ひますので、その辺よろしくお願ひをいたします。

それでは、日程第2に移りたいと思ひます。

日程第2、その他ですけれども、その他について何かございませんでしょうか。

（「なし」と呼ぶ者あり）

○議長（谷口 整） 当局よりも何かございませんでしょうか。

（「結構です」と呼ぶ者あり）

○議長（谷口 整） ないようでございますので、これにて全員協議会を終わりたいと思ひます。

どうもお疲れさんでした。ありがとうございます。

閉 会 午前11時24分

宇治田原町議会全員協議会規程第8条の規定によりここに署名する。

議 長 谷 口 整